日本語文法学会　第 26 回大会シンポジウム

日本語文法研究は何がどう進化しているのか

企画：建石 始（神戸女学院大学）

１．趣旨説明

過去の学会誌や研究会誌を眺めていると、現在とは異なる分析手法や分析内容があることに気づかされる。あるいは、昔なら採用されていたが、現在ならやや難しい…というものもあるかもしれない。

過去の研究と現在の研究を比較した際の上記の気づきをかりに進化と呼ぶとすれば、日本語文法はこの数十年間で進化している部分が多々あるとともに、変わらない部分もある。本シンポジウムでは、複数の分野、領域から、進化している部分と変わらない部分、あるいは今後の進化の可能性について、じっくり議論を行いたい。

２．登壇者・コメンテーター・司会

登壇者

衣畑智秀（福岡大学）「仮説検証としての文法史研究」

中俣尚己（大阪大学）「日本語文法研究はデータをどのように扱ってきたか」

三宅知宏（大阪大学）「文法研究における「記述」とその展開」

コメンテーター

田川拓海（筑波大学）

司会

建石　始（神戸女学院大学）

ご質問は
こちらから

３．シンポジウムの構成（予定）

13:40-13:45：趣旨説明

13:45-14:25：講師１による発表

14:25-15:05：講師２による発表

15:05-15:10：休憩（5 分）

15:10-15:50：講師３による発表

15:50-16:05：休憩（15 分）

16:05-16:20：コメンテーターから

16:20-17:10：登壇者間でのディスカッション・フロアとの質疑応答